

小冊子（講演を文章化したもの）



1997年から2002年にかけて福岡市で開催された教育関係の講演記録です。講演は約3時間ですが、講話の部分を一部文章化しました。

当時の福岡での協力者によって、以前よりテープ起こしの原稿は出来ていましたが、出来るだけ多くの方々に手に取って読んでいただけるようにとの思いから、今回新たに竹下氏により編集し直したものを冊子化しました。（現在編集途中のものも、今後追加していきます）。

子育てを通して得られる智慧により、家庭、学校、職場での様々な人間関係の問題も解決できるようになります。本当の自分は何か、どう生きればよいのかということの参考になると思います。この小冊子をご希望の場合は、ユニティ・デザインまでご連絡ください。有償で頒布しています。詳しくは[アクセスサイト](#)をご覧ください。また、[アクセスサイト](#)には同じものを掲載しており、無料でダウンロード出来ます。自由に何冊でも印刷して、ぜひお知り合いの方にも差し上げていただければと思います。

【子育て】 子供たちの心を感じられますか（1）～（6）：全6冊

【教育】 思春期の親子関係（1）～（4）：全4冊



【著者プロフィール】

竹下雅敏（たけしたまさとし）

1959年神戸市生まれ、広島県在住

子育て、人間関係、宗教学、自然療法など、幅広いテーマの講演活動を行っている。

監修図書「幸せを開く7つの扉」ビジネス社

豊かな心をもった自立した人間を育てるために

アクセスサイト：<http://www.unity-design.jp/jiritsu.html>

発行：ユニティ・デザイン

お問い合わせ：TEL&FAX 0823-22-8832

子供たちの心を感じられますか（3） — 育児の智慧 —

今回は、育児教育の基礎となる重要なことについて、順に説明していこうと思います。育児も教育も夫婦関係も、要点はみな同じです。なぜなら人間の心の動きは、赤ちゃんも大人も全然変わらないものだからです。ただ大人は複雑に反応するだけで、心の動きは同じです。夫婦関係でも同じです。要するにお互いが「あるがままのあなたが好き」とそう感じているかどうかで、夫婦の仲がうまくいくか、これから壊れていくかが決まりますね。夫婦ではあるのに、そこに冷たい壁のような何かがあるかないかということです。本来の夫婦関係は、恋人同士だった時の感覚がずっと永続する、そうあるべきなんです。途中でいろんな危機がありますね。それはお互いがお互いに対して、「私はお前のこういうところが嫌だ、だから変われ」という自分のイメージを押しつけ合うということです。子供に対しては、親が「あるがままのあなたが好きなんだ」ということを、言葉でも態度でも示すことが大事です。ですから子供に対しては、特に条件付き的な愛情を示さないことが大事です。「私はお前のことが嫌いだ、ああいうところが

映像配信している竹下氏の講演テーマは大きく分けて5つあります。

会員登録していただくと、有料コンテンツ（1本1時間ほどの講演が525円）をご覧いただけます。普通にインターネットの操作ができる方であれば、簡単に会員登録と視聴ができます。無料コンテンツや試聴映像をお試し下さい。なお、ネットが混み合う夜よりも朝昼の時間帯の方が快適にご覧いただけるようです。

視聴代金は、1ヶ月分をまとめて、翌月初めに明細をお送りして、郵便振り込み又は代引きでお支払い頂いています。詳細は映像配信のページをご覧ください。

《テーマ1》 家族の絆 [連続講演]

夫婦関係そして親子関係がしっかりしていて家族の絆が深い家庭は、どんな逆境も必ず乗り越えられます。しかし単なる経済的なパートナーであるような夫婦だと、夫が職を失ってしまうと、家族はばらばらになってしまいます。男性が家族より仕事を優先するような価値観は、いやがおうでも変えさせられるような世界の状況になっていきます。正しい優先順位は、第1が夫婦、次が子供、そして友人。仕事はずっと下です。

〈家族の絆～親子(1)～より〉

サブテーマ)

親子(親子関係)、夫婦(夫婦関係)

《テーマ2》 宗教学講座

この講座では宗教を科学的な視点から精密に霊的な科学として捉え直します。そうすることで、あらゆる宗教のある意味での一致点と相違点が明確になってくると考えています。仏教、キリスト教、神智学、ヒンドゥー教の哲学、サーンキヤ・ヨーガなど、それぞれの世界観がどう違うのか、言葉を正確に定義して、同じものは同じと捕まえて、宗教の全体を理解することを目指しています。

〈初級コース第1回より〉

サブテーマ)

初級コース(中級上級は順次開講予定)

番外編:ダ・ヴィンチ・コードの真相

《テーマ3》 チャクラと波動、祈り方

人間の身体には重層的に高次の身体があり、その神経中枢がチャクラと呼ばれています。チャクラの活動は、その方の意識と密接に関係しており、いわゆる「波動(意識の高さの尺度)」を計るセンサーとしての機能もあるそうです。

インドに伝わるガヤトリー・マントラは、ガヤトリー女神を讃え智恵を授かることをお願いするマントラです。このマントラを使った除霊と浄化の祈りなど、心身の浄化と波動を高めるための様々な方法を竹下氏が解説します。

《テーマ4》 東洋医学講座(雑談集)

この講座は、中国医学、インドのアールヴェーダ、アロマセラピー、ホメオパシーなど、代替医療を統合する医療理論を学ぶ講座です。テキストとDVDで販売してきましたが、受講生の方に講座の中の雑談が好評で、4期行われた講義のうち教材にしていない映像から雑談部分を再編集して公開します。

《テーマ5》 ホツマの神々

日本神道に伝わるホツマの神々について、最近起こった事をお伝えします。

本当は爆発した方が良いのです。そして爆発して親や教師が問題に気づいて態度を改めれば、子供は変わって、もっと良い人間に成長していくんですが、だいたい親は気づかないで、より押さえつけていきますね。そうすると、今まで間違っていた育ち方をしてきた子供が、せっかく立ち直ろうとする芽を摘んでしまうことになってしまっって、一生直らなくなってしまうんです。精神的な病気を持ってしまうのです。

精神的な病気というと病院にかかるようなものを考えてしまいますが、私に言わせるとほとんどの成人はおかしい。なぜかという会社を大事にしすぎる。これは女性から見ると非常に異常なことです。今はもう女性の方もおかしくなってきたと思うんですけど、仕事が大事になり過ぎている。常識的なものの考え方をすれば、仕事よりも子供の成長を優先するだろうと思うんです。自分を犠牲にしても子供を大切に育てようと思うものなんじゃないかと思うんです。ただけ今は違っていて、自分の欲望を優先するんですね。何故そうなるかというと、親も子供の時からあまりにも自分の欲望を押さえつけられて育ってきているので、やっと自由になってきたら自分の欲望を最優先してしまう。それは大学生がクラブ活

ま自分を知ることになっていきます。もしこれを徹底してやったら間違いないく、「悟り、あるがままで」という境地に達するでしょうね。悟りというのは本当は出発点で、そこがスタートラインなんですけど、そこに到達出来るということですよ。そのくらい子供をちゃんと育てること、自分自身を見つめることは大切なことです。

(講演 1998年11月1日 福岡市)

〓〓この小冊子の内容は、転載、引用自由です。〓〓

は全く違うのです。自主性を尊重するというのは、子供の主体性を尊重して関わることです。だから子供が好きかどうかをちゃんと聞いています。それから子供がどういふのを好んでどういふのを嫌がっているかをちゃんと気づいていることなんです。放任というのは放ったらかしです。子供に対して全く無関心なことです。放任でなく自主性を尊重するようにするのは、これは全然違います。

自主性を尊重して育てるときに一番大切なことは、*「子供は自分とは違うんだ」ということを親が徹底的に自覚することです。たとえ自分と妻の遺伝子を半々もっていたとしても、自分とは全く違う存在なんです。性格は全然違います。本質も全然違うんです。全く違った存在として生まれてきます。特に自分の理想を押しつける、自分の夢を押しつける、ということをやってはいけません。自分の夢は自分が叶えるものです。子供の夢は子供が叶えるものであって、自分が出来なかったことを子供に託すのは良くないことだと思います。*

子供の主体性を尊重するうえで一番大切なことは、*「子供の人格を認める」ということに尽きています。立派な教師かどうかというのは、ここだけで決まると言ってもいいのです。愚かな先生は子供の人格を認めていない、子供を調教する*

うのです。そうすると親の方は理由がわからないので、何て嫌な子なんだろうと思って叱る。叱ると子供は、自分は受け入れられていない、愛されてないと思い、不安になって、ますます親を試す行動をとるようになる。それで悪循環にはまってしまうのです。

この場合は、「お母さん、セロテープ何処にあるの」「向こうにあるでしょ、探さない」と言ったのが気に入らなかった。それに気づいてからは機嫌は直ったんですが、親としてはそれで終わってはいけないのです。もっと深い所を見ないといけない。何故そんなことで腹が立ったんだろうか、そこまで見ないといいません。要するに機嫌が良い時だったら、「そうか」と思って自分でセロテープを探すのに、何故その時には腹が立ったんだろうかということ。ということは初めから腹を立てていたんですね。腹立ちという気分が先にあって、それでお母さんに「セロテープ何処にあるの」と聞いて、それでお母さんが取ってくれたら機嫌が良かったのに、取ってくれなかったから怒りという形で内向したんですね。何故最初に腹立ちがあったのかということが問題なんです。私と妻はその前に話をしていたんです。私と彼女が非常に楽しそうに話をしていたので、子供はおも

いので、そういう人は自分が何かしたことに對して感謝されてほめてもらうことで満足を得ます。妻は前に体重がかかっているので、自分のやったことに對して感謝して欲しい、自分がいることを感謝していると云って欲しいのです。ところが私は推薦している図書「体癖」（野口晴哉著・全生社）という本の中の2種・8種体癖なんです。私は大体意地悪な性格です。特に8種という捻れ体癖は、相手がそうだなと思うと絶対に言わないんです。これが捻れ体癖の特徴です。この本はすごく面白いです。自分の性格を知るといっても面白いし、よく読むと人の性格もわかって、そうするとこういうタイプの人にこう言ったら喜ぶというのがわかるんです。わかっているに取返してやらないのが8種体癖です。

子供にも体癖がある、うちの子供は9種体癖です。すごく直感力が鋭くて本当のことか否かが直感で見分けられる。だから親が偽善的なことをちょっとでも匂わせたら、もう親の言うことは信じてもらえません。9種体癖の子供を教えようと思ったら首尾一貫していなければなりません。そして全部を語ってはいけません。ところが私のような2種体癖の子供に片づけるように言うときは、「片づけてない」と足で踏むだろう、せっかくのお前の大切なおもちゃが壊れちゃうじゃな

なくて夫婦関係をしっかりと見直さないといけない。

子供の態度に否定的側面が見えた場合は、それを子供の性格として受けとめず、一過性のもと考えます。時間がたてば消えていくと考えるんですね。そして、なぜ子供がそのような態度を取るのかを理解しようと努めて下さい。子供をいつもよく見ていて、何か子供が否定的な態度を取った時にはその原因を理解する、そしてその原因を取り除くという形で全部対処するのです。

うちの話ですが、子供が母親に対してすごくけんのある態度を取ったんです。母親が「とも君、あれを取ってよ」と言うときすごく嫌な態度を取ったんです。明らかに怒っているという態度を取ったのです。子供がそういう態度を取ったということは何か原因があるのです。その原因は何だろうかと私は考えました。先程まで子供が何をやってたかをずっと思い返しなから、「とも君、さっきはおもちゃで遊んでいたよね」「とも君、何か今怒っているだろう」「怒っていない」「怒っているじゃあないか、何で腹立っただ？」と話しかける。それでも子供はわからないんです。腹が立っている原因はもう忘れているのですね。だからそれを一緒に探っていくわけです。するとおもちゃで遊んでいる時までには機嫌が良

せん。ですから逆に言うと思春期の講座は難しいです。4歳、5歳位になって子供をよく見ていると子供の体癖や個性がわかってきます。こういう本をしっかりと読んで心理学を勉強しないといけないです。だからこういうのが本当の勉強で、ものすごく面白いです。是非子供が小さい時はこういうことを勉強して、自分自身を知ることが出来る、自分の妻のことが出来るようになるのがいいです。そうすると自分も知らなかった自分自身のもっと深い部分も知ることが出来るようになります。こういう方が学校で学んだ歴史とか化学よりもずっと大切な勉強だと思うのです。面白くて一生学び続けられますね。

うちの会社に面白い人がいるのです。先輩で7種体癖なんです。7種体癖というのはケンカ早いので、常に勝とう負けまいとして頑張ります。非常に面白い人で、この前は子供の話をしてきました。「子供がわからないんだあ。うちの子供は背が低いんです。ジグソーパズルをやっていて、親が会社から帰ってくると全部仕上がっている。」これは相当頭が良い、知性的なタイプだ、そうすると体癖では1種か2種の上下体癖だろうなと思いました。ところが背が低くて前後に分厚い、しかもジグソーパズルをやっていて全然飽きないということです。そうす

を向いて、「とも君は優しいからなあ」とポソツと言っわけです。

直接その子をほめない。これは大変大事なことです。うちはいつもそんなことをやっています。妻が車を運転している、私が子供を膝の上に乗せていると、妻が私に話しかけてくる。「昨日私すごく疲れてたの、だから何時間か寝てた、その時とも君はとても静かにしてくれて、寝させてくれたの」。妻が私に話すという形で子供に入れたわけです。「とも君、すごく優しくかったのよ。昨日こんなことをしてくれたのよ」と話す。「ああそうか」と言って何も言わない。そして子供がそれを忘れてふっとリラックスした時に、「とも君は思いやりがあるからなあ」とポソツと言う。その子に向かって言わない。よそを向いてポソツと言うとサツと入る。するとその子は思いやりのある子に育つ。それが秘訣と言えば秘訣で、一番大切な技術なんです。大切なことは思いやりのある子に育てようとして、こういう操作を絶対にはいけない。そうではなくてその子がある行為をした、そういう行為をしたことに対して、親が子供の中に思いやりを見い出すのです。この子は思いやりのある子だなあと感じとるんです。ですから親の方にそれを感じとる感受性がないと全然駄目ですよ。そういう意味でよく見ていないといけ

これで懲りるだろう、「お父さんご免なさいもうしません」と言っだろうと思っただ。ところがその子はどうしたかというところから鍵をかけて、「絶対開けるなよ」と言うんで、お父さんの方が参ってしまった。結局、子供と和睦を結ぶしかなかったというのでしたが、それだけ聞いたらどうしようもない反抗的で手に負えないガキですよ。ところが私はそれを聞いて、これは育て方が間違っているなあ、将来大変なことになるなあと思っただ。幼稚園ではどうしているんですか」と聞いたら、「幼稚園では凄い良い子なんだ、全然ケンカとかしないし、おとなしく遊んでいる」。幼稚園の保母さんが言うには、その子は幼稚園でいつも同じおもちゃで遊んでいる、いつもその子を持っている。そのおもちゃは3つしかないのです。園児がいっぱいいたらおもちゃを取れる確率がほとんどないんです。なのにいつもその子を持っている。「不思議ですねどうしてでしょう」と言っっている。そうしたら1年後に保母さんが、「あの子がどうしていつもおもちゃを持っているかがわかりました」。凄いですこれが。他の子がそのおもちゃを持って遊んでいます。そしたらその子の後ろに行って、「僕、そのおもちゃで遊びたい、僕それ好きなの、それで遊びたい、それ僕のだ」と延々と言い続けるんだそうで

きます。

子供と上手くいっていない親というのは、子供をチラッと見て後は見ていないですね。よく見ている時はいつかというところ、腹を立てている時です。今から怒ろうとする時によく見ているんです。これはまずいです。心を白紙にして見れば見るほど、親子関係や夫婦関係は良くなります。癌の研究をしている人はずっと研究で癌を見ているでしょう。よく見ていると癌細胞でも愛せるようになるんですよ。癌細胞を見て「愛おしい、守ってあげたい」と言っんですね。これは本当です。「癌というのは人間の体から出しちゃうと死んじゃうんです、私が守ってあげたい」と女の研究者の方が言っていましたけど、そうなんです。癌細胞ですらそうなんだから、自分の子供をじっとよく見る、見る、見るってやっていると本当に愛せるようになります。これがすべての秘訣です。

そうすると子供が良いことをいっぱいやっていることがわかり始めます。親が今まで気づかなかったところで、「ああこの子はこんなことをやっているんだ、お父さんお母さんを助けようとしてこんなことをしているのか」というのがいっぱいわかるんです。たくさん子供は素晴らしいことをやっています。私が疲れて

う本を見せて、「この本の中のタイプ5じゃないですか」と言つと、「これだ」と言っていたので、多分買って読んだんだと思います。良い本を読んだりして、子供の性格とか感受性とかがわかるように勉強しないといけないですね。

子供を理解してちゃんと受け入れることが大事です。「何やお前こんな虫も触れんのか」と親が言っちゃつと、9種は積極的な奇数体癖ですから病気とかにはなりにくいけれど、代わりに家庭内暴力とかを起こすんです。ところが私みたいな偶数体癖の人は内向して病気になっていく。「お腹が痛い」「頭が痛い」といつも言うようになる。これは親が相当子供をいじめて育てている。親はいじめているつもりはなくて、子供には虫ぐらいは触れる様になって欲しいと思う。虫も触れないでおどしている子供は見たくない。それでこのような対応をするのだと思うのですが、親が子供に対する対応を誤ると、病気になったり反抗する子供になるということです。

ところが7歳を過ぎて小学校に行くようになると、ある程度家庭から解放されるので、こういう性質が一旦消えて潜伏します。これが再び出てくるのが中学生位になった思春期頃で、登校拒否、あるいは問題児とかになる。思春期になると

